

幸福の木

中村祥二（会長）

「幸福の木」の花の香りを嗅いだことがありますか。春から夏にかけて、新聞やテレビで幸福の木の花が咲いたことがときどき話題になるのは、この樹がそうは簡単に花を咲かせないからだろうか。リュウゼツラン科で学名は *Dracaena fragrans* である。学名からして香りの良い花を咲かせることがわかる。和名はニオイセンネンボク。ギニア、ナイジェリア、エチオピアが原産で、多くの品種があり、幹の節目から、光沢のある濃い緑に薄い黄色の筋の入った大きな葉を盛んに伸ばす観葉植物である。幹を切って挿し木すればすぐに発芽、発根する生命力の強さと目出度い名前とでお祝いのギフトに喜ばれている。幸福の木の花が初めて咲いたので、香りを調べてほしいという電話が東京世田谷の用賀の方からあった。このように、変わった花が咲いたので香りを嗅ぎに来てほしいという誘いが時々はあり、珍しいことでは無い。花はタイミングをずらすと香りの時期を失ってしまうので、すぐに出かけた。

マンションのドアを開けると、中から強い花の香りが吹き出してきた。普通、初めてのお宅を訪れるとその家の独特の匂いが感じられるものだが、この時ばかりは花の香りだけが圧倒的に感じられた。

家人の話によれば、数日留守をして帰宅したところマンションの一角を温室のようにしつらえた部屋の中で幸福の木がたくさんの花をつけていた、と言う。

黄みを帯びた白い花の香りを注意深く嗅いでみると、基本的にはヒヤシンスのニオイだが、ヒヤシンスよりはグリーンが鋭く、ライラックの香りも混じっている。底の方には奇妙な甘さが潜んでいて、その甘さは藤の花の蜜を含んだような重い甘さにつながるところがあった。成分を分析すると藤の花、バラや梅の香り成分が含まれていた。ヒヤシンス様の香りと藤の甘さのコンプレーションはその時まであまり経験したことがなかった面白い組み合わせだった。



幸福の木 *Dracaena fragrans*

そのお宅ではご主人がヘビースモーカーで、いつも部屋の中がタバコ臭かったのに、この花が咲き、香りが家中に広がったことで、不思議とタバコ臭が感じられなくなったという。玄関に入ったとき、花の香り以外のニオイを何も感じなかった理由がわかったような気がした。

この花の香りを再現して、タバコ臭を消すのに利用できないかというアイデアが浮かんだが、この花の香りは人によって好き嫌いがありそうで、残念ながらこの消臭剤の開発は行わないことにした。

その後、横浜国立大学で行われた香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会で「幸福の木の花の香りの分析」に関する研究報告が2題行われることを知り出かけた。発表者二人の発表内容に違いがあり熱のこもった討議が行われた。どうしてなのだろう。この事が長く私の記憶に残っていた。最近になって気付いたことがあった。幸福の木には多くの園芸品種があるのだ。種類によって香り成分に少しの違いがあってもおかしくはない。